



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1997年4月1日発行 第11号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

★ 1997年度総会開催日程決まる ★

本年度の総会開催日程および会場等が、下記のとおり決定しました。今回は例年と異なり、できるだけ多くの会員の皆様にご出席しやすいように、夜間に開催することにしました。また、形式も従来のように総会だけ、というのではなく、ディナーと「みなとヨコハマの夜景」をお楽しみいただけるよう、趣向をこらしました。初夏の一夜をスペインを肴に、おおいに盛り上がりたいたいと思います。

— 記 —

開催日： 1997年(平成9年)5月23日(金)
受付： 午後6時より
会場： 横浜クルーズ・クルーズ(JR 横浜駅東口スカイビル 27階 / そごう隣)
TEL: 045-450-2111 / 横浜市区高島2-19-12
会費： 5,000円(予定)

★ 第三回スペイン友好使節団親善交流『さくら植樹』事業概要決まる ★

当協会のシンボル事業である、スペインへの『さくら植樹』のための第三回友好使節団の行動計画の概要が次のように決定しました。

詳細な日程や日時、旅費等については今後、旅行委員会で検討していただき、その後会員の皆様にご報告と旅行へのご参加の呼びかけを行うということになりますが、そのさいには多くの会員の方のご参加をお待ちいたします。

また、桜を植樹する各都市で開催する「横浜デー」の内容についても専門の委員会を設け、そこで具体的な実施計画を検討していただくよう予定しています。会員の方で、「旅行委員」または「横浜デー実施計画委員」への参加のご希望がおりの方がおられましたら、ぜひとも事務局まで、お申し出ください。お待ちしております。

◆ 行動予定案概要

[第1日目]

夜：マドリード着《マドリード泊》

[第2日目]

午前：マドリードからセビリアに移動。

午後：コリア・デル・リオ市表敬訪問、横浜市長メッセージ伝達、桜植樹。《セビリア泊》

[第3日目]

午前：セビリア市表敬訪問、横浜市長メッセージ伝達、桜植樹、横浜デー会場設営。

午後：横浜デー開催。《セビリア泊》

(横浜デー・行事内容)

横浜市の紹介(2002年サッカーワールドカップ開催地横浜)

日本語講座、写真展、ワークショップ(押し花グリーティングカード、折り紙、和紙ペーパークラフト等の製作指導)、小学生の絵画展。

[第4日目]

午前：横浜デーつづき。

午後：会場撤収。セビリアからロンダへ移動。《ロンダ泊》

[第5日目]

午前：ロンダ市表敬訪問、横浜市長メッセージ伝達、桜植樹、横浜デー会場設営。

午後：横浜デー開催。《ロンダ泊》

[第6日目]

午前：横浜デーつづき。

午後：会場撤収。マラガに移動。《マラガ泊》

スペイン熟年二人旅

< 第2回 >

渡邊 昭夫

気ままな二人旅と親切な人々

学校生活の2週間が終わった後の2週間が、また楽しみの観光です。自由に旅ができる方々には笑われそうですが、二人旅の大変さと良さを実感してきました。3箇所のスケジュールの大枠は予め決めていったのですが、そのなかでのスケジュールは現地で健康状態や天候状態で、適当に変えられましたので、特に見たいものや、買いたいものに会うことができました。

有名な観光地はともかく、Sevilla の闘牛場の前にひっそりと立つ Carmen の像や Madrid の Puerta del Sol 広場から Alcalá 通りをわずかに東に行ったところにある、La Violetera(花売り娘)の像と会うことができました。La Violetera の像は高柳治子先生から教えていただいたものです。Madrid の花売り娘をうたった曲で、チャプリンの映画「街の灯」に流れる有名なこの曲の歌詞を、像の台石のプレートに見つけた時は感激ひとしおでした。本や CD 探しなど買物にも十分な時間がとれ、気まま旅行の良さを感じたものです。

今回の旅も親切な人々に助けられました。Sevilla では、そこで2年間スペイン語を勉強し、今は横浜に戻られた青沼嬢の紹介で、Sevilla 滞在4年の亀井画伯と Francisco 君に会いました。亀井画伯には大変お世話になりました。悠々自適の生活は羨ましい限りです。Francisco 君は真面目で礼儀正しく、日本語の達者な好青年です。彼の家を家庭訪問したときは、家族総出の大歓迎です。お母さんが丁寧にスペインの家庭料理を教えてくれた様子をビデオに収録してきましたが、われわれの宝の一つです。今度彼が日本に来ることを心待ちにしています。

このほかバスに乗るとき、「カメラに気を付けなさい」とわざわざ教えてくれた señora。うっかりサマータイムの切り替えに気付かず、バスに乗り遅れたわれわれを助けてくれた Granada の警備員や、道を訊ねたら、ワット寄ってきてワイワイ教えてくれた señoras など、暖かい心に触れることもできました。

又 Sevilla を中心に出会った Semana Santa のお祭りも貴重な体験です。タイミング良く計画が組めると、旅が更に楽しいものになりますが、このようなときはホテルが満杯となりますので、周到な計画を組むか、思い切って現地へ乗り込んでしまうか、決心をする必要があります。

実は苦勞も失敗も

自分でパスポートを持つため、かなり念入りに対策したおかげで盗難には合わずにすみましたが、熟年コースではわが家の señora が大変苦勞しました。初めのうちはついていけたのですが、だんだん難しくなり、先生の質問が判らなくなりました。悩んで家族会議です。他の人に迷惑をかけたくないし、止めたくないし、考えた末先生にお願いしました。「señora は宿題をキチンとして答えます。しかし難しい質問はしないで、レ



荘重と華麗！
マラガのセマナサンタ

ベルに合った質問にしてください。お願いします」。翌日から、次々と来る先生に徹底されていました。きめ細かいサービスです。助かりました。

Madrid の Prado 美術館では、GOYA 展を空いているうちに見ようと早く着いたものの、別の入り口で待ったために、気が付いた時は長蛇の列、30分以上時間をムダにしました。人にキチンと聞いておけばと反省です。入り口にフラッシュ付きのカメラの絵のフラッシュのところに×印のある標識を見ました。中に入って、あの有名な「裸のマハ」の前です。当然フラッシュなしで記念撮影をバシッ！途端に係の señora が No, no。驚きました。ここは特にダメだというわけです。特に掲示もないようだし、他にも怒られている人がいましたが、ダメはダメですから謝りました。他国で怒られるのは、特に不愉快です。

ここでも一旦撮る前に一言聞けば良かったと反省です。以降は改善して気持ちの良い撮影ができています。

Granada ではサマータイムの切り替えに気付かず失敗です。前日買った6時発のバスの切符を持って、バスセンターに自分の時計で5時10分過ぎに着いて、大きな時計に目をやると6時10分。事務所の別の時計は5時10分。スペインの大時計は故障でしょうとのんびりしていましたが、何か様子がおかしいと考え、ハッと気が付いたときは既に予約したバスは、Malaga に向けてひた走り。近くにいたあの警備の señor に拙いスペイン語でお願いします。運良く次の便に切り替えてもらいました。冷や汗ものです。

夢よ、もう幾度も

行く前はあらゆる不安が先立ったものの、案ずるより生むは易く、健康と安全共に何事もなく無事帰国できました。勿論細かいところでも、いろいろ苦勞や失敗がありましたが、帰ってみればこれも楽しい思い出です。第二の人生を歩む道程で、このような旅も一興かと思われまので、お奨めする次第です。

今回のこの旅で、文化の交流のためにも、人生を楽しむためにも、やはりスペイン語をもっと勉強すべきであると痛感しました。AIYES のスペイン語教室で勉強を続けて、できれば再びMARAGA INSTITUTO に挑戦し、次は別の地方も加えて「ものにてあう楽しさ、人に出会ううれしさ」を楽しみたいと考えています。夢よ、もう幾度もです。(完)

サンチャゴ巡礼道を歩いて

< 第1回 >

笠島 眞佐恵

六年程前でしょうか、親しい友人からスペインの古い巡礼道の話を知りました。彼女の話の中で一番印象的だったのは「サンチャゴ・デ・コンポステラの大伽藍にある栄光の門柱には、何百万もの人が手を当てて祈ったがために指の形に石にくぼみがある、その中に手をいれたとき、自分はクリスチャンではないがその数えきれない程の人々の思いが伝わって胸にせまるものがあった。」と言うことでした。「あなたはカトリックの信者だし、ぜひ行ってごらんさい。」と言われ、それまで寡言にしてそのような古い巡礼道が今なお現存して多くの人々が歩いていることなど何も知らなかったわたしは、驚くと同時に自分もぜひ行ってみたいと思ったのです。それから市ヶ谷のマナンティアルで巡礼道のガイドブックを買い、また日本語の本も探してみました。しかし日本人でピレネーを越えて800キロもの道を歩いて本にした人は、わたしの知る限りでは、たった一人、彫刻家の池田宗弘氏だけでした。あとはみな車で行った記録ばかりで、わたしの知りたい情報は得られませんでした。知り合いのスペイン人に何冊か本を送ってもらいましたが、出発まぎらまで、あまり具体的な情報がのっている本は手に入りませんでした。それでも何冊かの本を読みましたが、この道に行くのは単なる安上がりな観光旅行ではない、自分自身に出会う道であるとか、歩いて行くにつれ、宇宙の命と自分が一致して行くのが分かるだろうとか、いろいろのことが書いてありましたが、一体どのような道なのか、不安と期待は大きくなるばかり、まるで未知の世界に行くようで、とうとう池田氏に手紙をお出ししたところ、思いがけず、すぐお返事をいただきました。少し遠いが(長野県)一度遊びに来てはとのことで、カラマツ林の中のすてきなアトリエにお邪魔しました。そこでなんとか道のイメージもつかめたのです。池田氏の本も大変参考になりました。(巡礼の道絵巻、形文社)最初のころは息子と行くつもりでしたから、孤軍奮闘の感じで資料集めをしていたのですが、種々の事情から息子のかわりに笠島が行ってくれることになり、わたしも一安心。彼がガイドブックや前述の池田氏の本を参考にして、だいたいの日程を立ててくれました。わたしのつもりでは40日かかる予定でしたが、彼もそんなところだろうとのこと、出発は5月末と決めました。このサンチャゴ巡礼道の歴史は9世紀にさかのぼります。キリストの十二弟子の一人、聖ヤコブがスペインまで伝道にきて、(スペインでは有名なピラールの聖マリア - Virgen del Pilar - の伝説もこ

の聖ヤコブと関係があります)その後、エルサレムで殉教しましたが、彼の遺骸が不思議な力によってスペインの西のはてに流れ着き、そこで葬られ、そのまま忘れ去られてしまっていて、西暦811年、一人の隠者が星の導きによってその墓を見つけた、というのがこの巡礼道の初めです。中世のカトリックの世界ではエルサレム、ローマ、サンチャゴへの三つの大きい巡礼道があったのですが、現在では前者二つの道はもはや徒歩で行く人は皆無と言ってもよいでしょう。しかしこのスペイン北西部にあるサンチャゴへは今でも多くの人々が歩いています。サンチャゴ巡礼道はその最盛期には年間50万を越える巡礼者がいたそうです。エルシッド、カトリック両王、アッシジの聖フランシスコ等々、有名無名の数多くの人々が当時の感覚では世界最果てのこの地をそれこそ命懸けで旅したのです。また世界初の旅行ガイドブックも11世紀に出されています。ヨーロッパ諸国からスペインに入るにはフランスを通り、ピレネーを越えなければなりません。全ヨーロッパを綱の目のように広がった巡礼道はフランスに入ると、パリ、ベズレー、ルブイ、アルルの四つを起点とした大きな道になります。やがて、ピレネーのてまえ、オスクバットで前者三つの道は一つになり、ローランの詩で名高いロンセスバージュに達するイバニェタ峠を越えることになり、この道は Camino navarro と呼ばれています。アルルからのピレネー越えはシス峠です。ハカを通り、フランシスコ・ザビエルの生まれたハビエル城の近くに行く Camino aragones ですが、やがてこの二つの道は、プエンテ・ラ・レイナで一本の道となり、ここから先は camino frances と呼ばれます。

今この道に行く人々はさまざまな動機をもって歩く訳ですが、面白いのは、ベルギーでは軽犯罪の受刑者に本人の希望があれば、警官をつけてこの道を歩かせ、サンチャゴにいたら帰りの旅費を持たせて無罪放免にする制度があるそうです。(P.4下段へ続く)



伝統的な巡礼者のスタイルは15~6世紀に確立したらしい
日除けの帽子、長い杖、そして杖の先の瓢箪
西, Santiagoを目指してのブロンズ象

芽吹いたセビリアのさくら

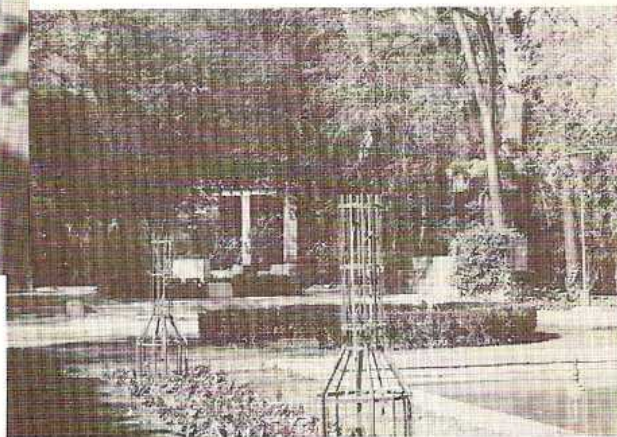
1995年11月、横浜スペイン交流協会と、宮城スペイン協会が共同で行ったセビリア市へのさくら植樹は、この行事に参加された皆様には記憶に新しいことと思います。

このたび、(財)国際親善協会が本年11月7日よりセビリア市においてジャパンウィークを催すにあたって、その打ち合わせのためにセビリアを訪れた担当者が撮影したセビリアのさくらの写真が当協会に届きました。

写真によると、マリア・ルイサ公園内で日本のさくらは順調に育っているようです。また鉄柵で厳重に囲われ、心ない人のいたずらからもしっかり守られ、管理の行き届いたようすがうかがえます。



鉄柵に囲われ、厳重に管理されている
日本のサクラ



さすがは南国セビリア。2月というのに
早くも芽がふくらみはじめている。

どの程度この制度を実施しているのか、本当のところは分かりませんが。スペインでもそういう制度をつくらいいのではないかと声があるそうです。ともかく、中世の罪の償いとしての巡礼行の観念がまだしっかりと存在しているのだと思います。そういえば、わたしどもも途中出会った奥さんが、喉が渴いているだろうとビールを御馳走してくれて、「お金は持っているか。」と聞かれ、「えーっ、お金を取られるのか。」とうんざりしたら、とんでもない、もしお金がないなら恵んでくれると言うのです。こんな事からも、ヨーロッパの文化はキリスト教が今なお民衆の心の奥底に根付いているのを感じました。わたしどもは Camino navarro を行きました。一カ月以上もの徒歩旅行となりますと、持ち物にも気を使います。一日20キロを

ゆうに越える行程ですから、一番大切なのは靴です。わたしどもは登山専門店でちょっと奮発して登山靴の形のトレッキングシューズを買い、足慣らしに丹沢登山などを致しました。また、泉区のウォークラリーで22キロ歩くコースに参加したり、それなりに体の調整も試みました。リュックも軽くて大きめのものを求めました。寝袋は家にあるスリーシーズン用のもので間に合わせました。あと雨具はやはり登山用のゴアテックスの上下、下着もダクロンのものを用意しました。かなり高度のあるところ(海拔1500メートル)も歩きますので、防寒用のカーディガン、ズボン、水筒は旅行用のペチャンコ水筒を持って行きました。

(次号をお楽しみに)

∞ 当協会顧問 柳貞子さん スペイン国王より叙勲 ∞

1996年末当協会顧問の柳貞子さんがスペイン国王陛下より“文民功労勲章”エンコミエンダ章を受賞しました。これは柳さんが長年にわたって、スペイン歌曲を歌いつづけ、ひろく日本の人々にスペインの歌を知らしめるとともに、スペインと日本の友好にも大いに貢献したということに対し

てのものといえます。

横浜スペイン交流協会では、このようなすばらしい方を顧問としていることに誇りを感じざるを得ません。柳さん、ほんとうにおめでとうございます。これからもますますご活躍されることをお祈りいたします。



∞ 21 世紀の日本とスペインの
相互協力についてのシンポジウム開かれる ∞

去る2月27日、マドリードでスペイン国際関係センターと日本スペイン協会の主催で、「21世紀を迎えるスペインと日本」と題するシンポジウムが開かれました。これは21世紀に向けて両国が直面している問題について、意見交換をして、相互協力の可能性をさぐる目的で行われたものです。

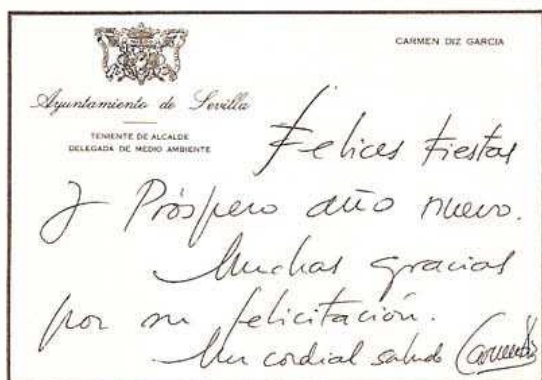
16世紀、フランシスコ・ザビエルの来日以来、幸いなことに両国はお互いに争うこともなく、友好関係が続いていますが、来るべき新しい世紀に向けて、最も望ましい関係と、両国が国際社会に対してどのように協力していくことができるか、また協力していかなければならないかについて、話し合われました。

話し合いの内容は (1)21世紀における国家と市民社会の新しい役割、(2)テクノロジーの時代における二つの文化の意味、(3)ライフスタイルの変化について、(4)スペインと日本両国の相互協力についてなどで、活発な意見交換がなされました。ちなみにパネリストは日本側が座長に中山太郎元外相、ほかに増田義郎東大名誉教授をはじめ7名。スペイン側は座長にペレス・ジョルカ元外相、ほか6名。

∞ セビリア、ロンダ両市より年賀状届く ∞

本来なら、前号(第10号)で会員の皆様に、お知らせしなければなりませんでした。すでに当協会が『さくら植樹』をしたことのある、スペインアンダルシア地方の州都セビリア市のカルメン・ディス・ガルシア助役(さくら植樹担当)、および『さくら植樹』第一号都市のロンダ市より、新年の挨拶状を頂きました。

本年度は明年2月を目標に、セビリア市にもう一度しっかりとした形での植樹と、同時にロンダ市へメンテナンスと補充のための植樹を行う計画です。その折には、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。



セビリア市(左)、ロンダ市(右)から当協会宛ての年賀状

旅程内容等の概要は、今号の冒頭にて若干お知らせしておりますが、追って『さくら植樹実行委員会』よりお知らせする予定です。

Ronda - 22-12-96.

Se desea de todo
corazon, muchas felicidades, y que
los lares que unen la ciudad
de Ronda y Yokohama sean
cada vez mas fuertes y
fructiferos.

Por Amor y felicidad
a Ud. y a todo el pueblo
de Yokohama.



Patronato Sociocultural y de Turismo
EXCMO. AYUNTAMIENTO DE RONDA

Gracias por la fotografia.

スペイン*ミニミニ情報

§★§ バルセローナに“新インフォメーション・センター”オープン §★§

バルセローナを訪れる観光客のすべてが立ち寄りといっても言い過ぎではない、カタルーニャ広場に、バルセローナの観光スポット、交通、宿泊などの情報を提供するインフォメーション・センターがオープンしました。

このセンター内には、両替所や、みやげ品売場も併設されていて、観光客の便宜をはかっています。

住 所: Plaza de Cataluña, 17-S
電 話: 34-3-3043134

§★§ ホテルの名前が変わりました。 §★§

ドン・キホーテの銅像が立つスペイン広場に近い、

今月のミニミニ・情報は、ワイド版でお届けします!!
この夏スペインへの旅行を計画されている方はもちろん、これから考えてみようと思っている方も、どうぞ参考にしてスペインを楽しんでください。

マドリードの4つ星ホテル「プラザ・ホテル」が『ホテルホリディインクラウンプラザ』(Hotel Holiday Inn Crown Plaza)に、名前が変わりました。

住 所: Plaza de España, 8, 28013 Madrid
電 話: 34-1-5471200

§★§ スペインにある世界遺産 §★§

世界にある人類の文化遺産を、後世に残していくためにユネスコが1972年『世界文化遺産・自然遺産保護条約』を採択しました。そしてこの世界遺産には、日本でも白川郷の合掌作りや、その指定をめぐって話題となった原爆ドームなどがあります。ところでこの世界遺産が、スベ

インには1997年3月現在で23カ所もあるのです。さすが豊富な歴史に彩られた国といえましょう。以下にそのスペインの世界遺産をご紹介しますが、あなたはこのうち、何カ所知っていますか？また、何カ所くらい行ったところがありますか？

<< スペインの世界遺産リスト >>

- (1) 古都サンティアゴ・デ・コンポステーラ
- (2) アルタミラの洞窟
- (3) バルセローナのグエル公園、グエル邸、ミラ邸
- (4) ブルゴス大聖堂
- (5) 古都サラマンカ
- (6) 古都セゴビアとローマ水道橋
- (7) 古都アビラと城郭
- (8) エル・エスコリアル修道院
- (9) テルエルのムデハル様式建築
- (10) トレド旧市街
- (11) カセレス旧市街
- (12) コルドバ旧市街
- (13) グラナダのアルハンブラ宮殿、ヘネラリーフェ庭園、アルバイシン地区
- (14) セビリア大聖堂、アルカーサル、インド公文書館
- (15) カナリア諸島ガラホナイ国立公園
- (16) タラゴナ県ポブレット修道院
- (17) アストゥリアス地方のブレ・ロマネスク様式の教会群
- (18) メリダのローマ遺跡
- (19) 巡礼の道
- (20) カセレス県グアダルーベ修道院
- (21) バレンシアのラ・ロンハ
- (22) セビリア、ウエルバ両県にまたがるドニャーナ国立公園
- (23) クエンカ旧市街とフーカル、ウエカル川峡谷

◆ 主なイベント ◆

- 6月20日～7月 6日 グラナダ国際音楽舞踊祭
(グラナダ)
- 7月 3日～27日 アルマグロ古典演劇祭
(シウダーレアル県アルマグロ)
- 7月 4日～16日 コルドバ・ギターフェスティバル
(コルドバ)
- 7月12日～8月24日 パブロ・カザルス国際音楽フェスティバル
(タラゴナ県エル・ベンドレル)
- 7月24日～28日 サン・セバスティアン国際ジャズ

フェスティバル

(サン・セバスティアン)

8月 2日～9月 2日 サンタンデール国際音楽舞踊祭
(サンタンデール)

9月 6日～28日 プエルタ(スペイン一周
自転車ロードレース：全国)

9月26日～28日 ゴルフ・ライダーカップ
(カディス県バルデラマ
ゴルフコース)

◆ 主な祭り ◆

- 6 月
1日 聖体祭(トレド)
20日～29日 サン・ファンの火祭り(アリカンテ)
- 7 月
6日～14日 サン・フェルミン祭(パンプローナ)
- 8 月
3日 アストゥリアス祭(オビエド県ヒホン)
9日 セヤ川下り(オビエド県アリオンダス・リバデセーヤ間)
16日 サン・ロケ祭(オビエド県ヤネス)
- 9 月
19日 南米移住記念祭(オビエド)
20日～26日 リオハの収穫祭(ログローニョ)
24日 メルセド祭(バルセローナ)

◆ 主な見本市 ◆

- 9月 9日～12日 パサレラ・シベールス(マドリード)
9月10日～13日 レディース・モードコレクション
(マドリード)
- 9月11日～15日 国際ギフト・家庭用品見本市
(バルセローナ)
- 9月22日～27日 国際家具見本市 (バレンシア)
9月22日～27日 国際陶磁器・ガラス装飾品展
(バレンシア)



小林英子

無類の食いしん坊であり又スペインが大好きな私ですが、とはいいいながらも今だスペインに足跡を付けられず情けない日々です。荻内先生の講演は是非にと参加を希望致しました。スペイン、イタリアを中心とした地中海地方の食生活は食材その物が健康食品であり昔から成人病の少ない地域と言われております。私もそこに触発され仕事を致しておりますので、『カルメンの食卓』何が飛び出して来るのだろうと胸膨らませて出掛けました。恥しながら小説もオペラもつまみ食いの怠け者にてまるで想像出来ません。明るく陽気なジプシー達の住んでいたセビリア港に注ぐ川の周辺、カルメンもこの陽光煌めく地で働きそのタバコ工場は現在セビリア大学法学部に成っているそうです。そしてホセは反対の北ノバスク地方(一応貴族とか)スペインの中でも特別拘りを持っている住人のホセと南の開けっ広げのカルメンが宿命的な出逢



いをし破滅への道を歩き出すその背景になる食卓には何が登場してくるのでしょうか。これはフランスの作家メリメが今から150年以上前に3人が出逢い広いスペインの地方ごとに食材も違い生き方も違う中でそれぞれの想いを強烈に誇示しあったのではないのでしょうか。機会があればパート2,3でその時代の食卓の話をもっと聞きたいな……と。

委員会だより

Vol.2 テルトウリア委員会

「Tertulia」を、「茶話会」または「おしゃべり会」として月に1回の割合で続けて来て、2年半になります。

会員どうしの交流の場として、語学クラスには属していないが、スペイン語での自由な会話をしたいという人たちが集まり、スペインの方を講師にお願いしています。講師は3人、ジョランダさん、チャロさん、グレゴリオさんを順番にお招きし、また私たちのスペイン語のレベルもさまざまですから、ひとつのテーマを決めます。用意できる人が3分程のことをしゃべりますと、そこから話題が広がり、講師からの質問あり、他の人の意見ありで、2時間程の楽しいおしゃべり会です。テーマは、旅行、食べ物、映画、夏休みや正月休みをどう過ごしたかーなど、いろいろです。

集まる人も少ない時は4人、多いときは15人。少なければ中身の濃い話ができますし、多いときは話もはずみます。時にはコーヒーとか MANZANILLA をいただきながらー。

松本 益代

～.～ 協会主催スペイン語教室

6 講座開講 ～.～

スペインとの国際交流と会員相互の親睦の輪を広げる目的で、会員がボランティア活動として講師をつとめ、サロンのように話し合いにより運営される講座が、今年度は6講座開講されます。

講座の概要は次の通りです。

- ◆『高柳水曜教室(ヒラソル)』 初級コース
- ◆『高柳金曜教室(アマポーラ)』 初級コース
- 以上2講座は、戸塚サンライフにて。
- ◆『栗山土曜教室(セレソ)』 中級コース
- 上記1講座は、産賀センタービル3階にて。

<<新規講座>>

- ◇『スペイン語入門コース』 始めての方対象
- ◇『スペイン語会話初級コース』 会話が苦手な方に
- 以上2講座は、かながわ県民サポートセンター7階にて。
- ◇『スペイン語で新聞雑誌を読む会』
- 上記1講座は、産賀センタービル3階にて。

<編集後記> 今年はすでに桜も満開。スペインのさくらも元気になっているようで、なんだか嬉しい春を迎えました。今年度も人の輪を咲かせましょう。
